

カントリーエレベーター利用計画を協議



JA筑紫は、物流センターで2019年度カントリーエレベーター運営委員会を開きました。組織代表者や行政関係者、JA役職員など19名が参加し、18年産米麦情勢と結果、19年産麦の生育状況を確認。19年産麦処理計画や収支計画など全議案を承認しました。5月17日から始まる麦の荷受けははだか麦「イチバンボン」が面積134ha、予定荷受け生重量約370t。委員会は、大規模乾燥調製貯蔵施設の適正な管理や運営を目指し、対象作目の利用、運営計画などを協議していきます。

青色申告会が通常総会

JA筑紫は、本店で第32回JA筑紫青色申告会通常総会を開きました。会員と来賓、JA役職員124名が参加。2018年度事業報告や19年度事業計画など全4議案を承認しました。19年度は、研修会や相談会などを通じた税務・会計知識の習得による適正申告に取り組み、充実した活動を目指します。

肥育牛部会が総会

JA筑紫肥育牛部会は5月9日、第46回JA筑紫肥育牛部会通常総会を開きました。部会員と関係機関、JA役職員19名が参加。総会では、2018年度の活動報告や、19年度の活動計画など全3議案が承認されました。19年度は、前年度に引き続き出荷牛の肉質の向上・安定及び枝肉重量の増加を目指します。また、県や関係機関と協力し、積極的な「博多和牛」のPR活動を行い、地域に根差した県の銘柄牛としての認知度向上に努めていきます。

機械利用組合・農事組合法人連絡協議会が通常総会



JA筑紫機械利用組合・農事組合法人連絡協議会は本店で、第20回通常総会を開いた。会員や福岡普及指導センター、JA職員33名が参加。2018年度活動報告や、今年度の活動計画・予算など全4議案が承認されました。19年度は、経営の多角化に向け、各種研修会の参加や、農作業事故を防止するための農作業安全研修会等の活動を行う予定です。

資産管理部会が総会



JA筑紫は本店で第39回JA筑紫資産管理部会通常総会を開きました。部会員と来賓、JA役職員59名が参加。2018年度事業報告や19年度事業計画など全4議案を承認しました。19年度の計画は、社会情勢の変化に対応するため、多様な知識の向上等を目指して研修会や相談会を行います。

魅力ある直売所目指して



JA筑紫は5月13日、2019年度JA筑紫ゆめ畑出荷者大会を開きました。直売所の出荷者や、来賓、JA役職員など102名が参加しました。

18年度実績や19年度計画を報告。また、昨年度から運用を始めたゆめ畑間で行う農産物物流の利用を呼びかけました。基調講演の他、地域農業振興に大きく貢献した生産者などを対象とした表彰式が行なわれました。

店舗ごとの今年の受賞者は次の通りです（順不同）
日下部正浩さん（那珂川店） 庄山勝明さん（太宰府店）
谷口米勝さん（大野城店） 吉野マサ子さん（筑紫野店）
柴田久美子さん（春日店）

健全な水稻苗を組合員の元へ



JA筑紫は5月14日から水稻苗の配送を始めました。4月中旬からグラウンドで育てた苗を、配送員が丁寧にトラックへ積み込みました。初日は管内の中山間地を中心に、苗567箱を組合員宅へ配送しました。

今年は約820戸の組合員から「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」合わせて約5万3000箱の予約注文がありました。6月下旬まで、苗を積んだトラックがグラウンドから出発し、水稻苗を待つ組合員のもとに届けられる。

（株）JAアグリサポート筑紫職員は「6月下旬の配送終了日まで、農家に喜ばれるように健全な苗を作っていきます」と話しました。

年金友の会 地区別大会



ＪＡ筑紫は５月１４日から２２日まで管内６会場で、ＪＡ筑紫年金友の会第３９回地区別大会を開きました。春日市ふれあい文化センターで開いた春日地区大会には３７０名が参加。２０１８年度活動報告の他、功労者表彰などを行いました。

福岡県産米を食べて金メダルを目指せ！



ＪＡ筑紫管内にある小学生のソフトボールチーム「紅葉ヶ丘ジュニアソフト」は１６日、春日南小学校で「輝け！ミライスター」の取材を受け入れました。

この取り組みは、ＪＡ全農ふくれんが主催。地元の米を食べ、各種大会などで金メダルを目指してほしいと、県産米キャラクター「めし丸くん」と共に県内の小学生スポーツチームの応援へ定期的に駆け付けています。

参加した２５名の児童は、めし丸くんと共にミライスターオリジナルの体操「金のめし丸応援体操」を実施。児童はめし丸くんの動きに合わせて体操を楽しみました。その後、県内でとれた米を使ったおにぎりや味噌汁を美味しく味わいながらめし丸くんと交流を深めました。

参加した児童は「『めし丸くん』と一緒に食べたお米はとても美味しかったです。これからもソフトボールの練習を頑張りたいです」と笑顔で話しました。

「夢つくし」田植えピーク



ＪＡ筑紫管内で、水稻の田植えが始まりました。管内の水稻作付面積は約７３８ｈａ。「夢つくし」の栽培は、ＪＡ管内で３分の１を占めます。

２４日には、農事組合法人かじわらが那珂川市上梶原で、１ｈａの田植えを行った。法人の組合員は「今年産も病害虫に注意し、品質の良い米を作りたいです」と意気込みました。

田植えは６月上旬まで管内の各地区で行われ、水管理と病害虫対策の徹底で品質の向上に取り組めます。

筑紫地区農業振興協議会が総会



筑紫地区農業振興協議会は、2019年度筑紫地区農業振興協議会総会を開きました。行政や福岡普及指導センターの関係者、JA筑紫職員24名が参加。

協議会は、筑紫地区の行政と福岡普及指導センター、JAが連携し、地域農業の振興及び農業技術の向上を目指します。総会では、2018年度事業報告や19年度事業計画など全6議案が承認されました。

園児が稲作を体験



筑紫野市立京町保育所は27日、保育所内の園庭で、園児が稲作り体験を行いました。

JA営農生活部職員は、園児に写真を見せながら米の栽培方法や田んぼにいる生物などを説明。園児は、JA職員の指導のもと、土を入れた2つの発砲スチロール箱に、発芽させた種を一粒一粒丁寧に播きました。

また、種まきを体験した園児はJA職員に対して「水は1日に何回あげるの?」「どうやって白いお米になるの?」など、興味津々に質問しました。

保育所の職員は「この体験を通して、毎日食べているお米のできる過程や、育てる人の大変さを少しでも知ってもらえたら嬉しいです」と話した。

ゆめ畑でJAカードをPR



金融渉外担当職員は、農産物直売所ゆめ畑太宰府店でJAカードのPR活動を行いました。

全国のJAバンクが取り組むJA農産物直売所約650店舗でJAカードを利用した場合、5%割引サービスに合わせて行われたもの。

店舗入り口に特設カウンターを設け、利用客にJAの利用状況に関するアンケートやカードの手続きを説明。渉外担当職員は「JAカードをお得に使って、多くの人に直売所を利用してほしいです」と話しました。

地元の生産者が児童に田植えを指導



農事組合法人かじわらは、那珂川市立安徳南小学校3年生と5年生の児童226名に田植えの授業を行いました。法人は、児童の食育活動をサポートする目的で昨年からの指導をしています。

法人の組合員は苗の持ち方や植え方を説明。児童は田んぼに入り、10aの圃場に「夢つくし」の苗を1つ1つ丁寧に植えました。田植えをした児童は「苗がお米になるのがとても楽しみ！早く収穫したいです」と笑顔で話しました。

組合員の村上正次さんは「田植えを体験することで、農業の大変さや食の大切さを少しでも知ってくれたら嬉しいです」と話しました。

第8期ちくし農業塾



J A筑紫は5月29日、J A営農センターで第8期ちくし農業塾閉講式を開きました。修了生6名は約11カ月間に及ぶ講義と実習が終わり、今後はJ A直売所出荷者や生産部会員の一人として活動する予定です。

式には、福岡普及指導センターや行政関係者、J A役員16名が参加。修了生には、修了証書と記念品の三角草削りが手渡されました。講師を務める室園正敏さんは「得た知識を自分のものにし、これからの農業にいかしてほしいです」と修了生を激励。修了生は、「消費者に認めてもらえるように、生産者としての誇りとプライドをもって野菜をつくりたいです」「栽培したことのない野菜に挑戦したいです」など、一人ひとり今後の決意を強く語りました。